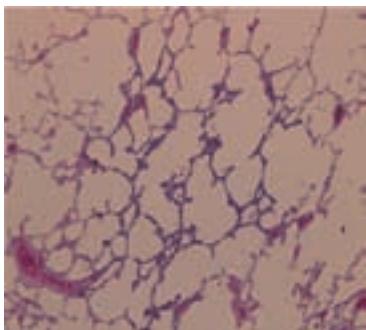
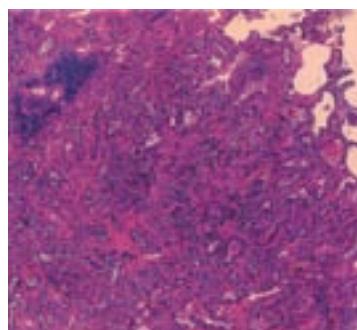


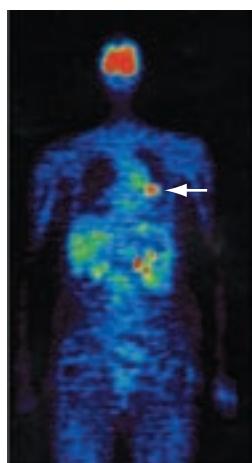
Aのスリガラス性陰影の病理組織像



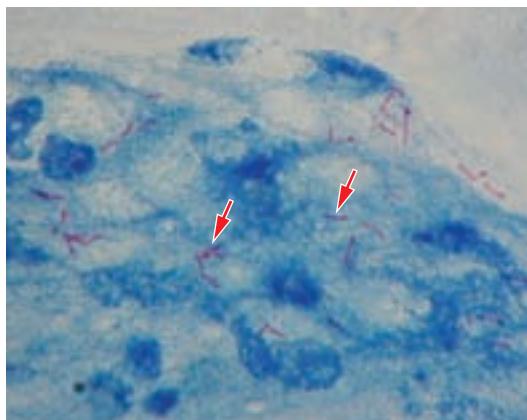
Bの浸潤影の病理組織像



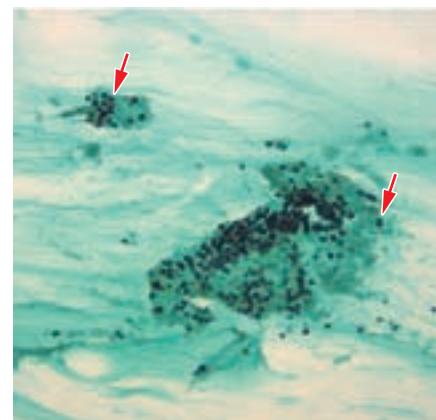
図A ●切除肺の組織像 (HE染色)
(75ページ図20参照)



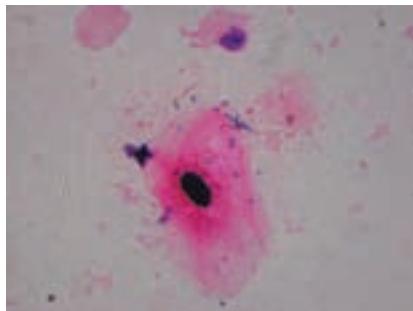
図B ●¹⁸F-FDG PET画像
(79ページ図25参照)
左下葉の肺癌に取り込みを認める



図C ●喀痰のZiehl-Neelsen染色 (抗酸菌)
(108ページ図1参照)
青の背景に、抗酸菌の菌体が赤く染まっている (矢印)。
染色所見から結核菌と非結核性抗酸菌を区別することはでき
ない



図D ●喀痰のグロコット染色
(ニューモシスチス)
(108ページ図2参照)
*Pneumocystis jirovecii*の嚢子が黒く染まっている (矢印)

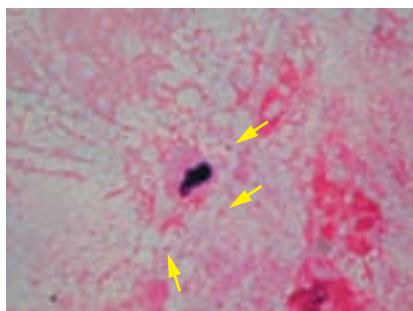


図E ●扁平上皮と口腔内常在菌

(不適切な喀痰検体)

(168 ページ参照)

扁平上皮に、複数の形態の細菌（双状、鎖状、クラスター状のグラム陽性菌や、グラム陰性菌）が付着している。これが多数みられるものは、検体として不適切である

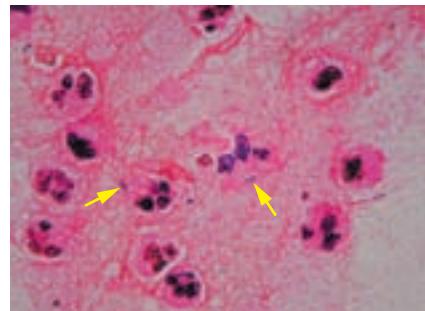


図G ● *Haemophilus influenzae*

インフルエンザ菌（グラム陰性桿菌）

(168 ページ参照)

球桿菌といわれる、とても小さなグラム陰性桿菌である

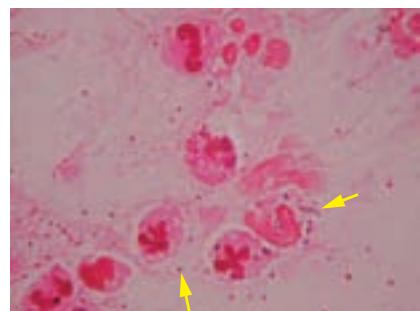


図F ● *Streptococcus pneumoniae*

肺炎球菌（グラム陽性双球菌）

(168 ページ参照)

夾膜をもつ、グラム陽性双球菌である

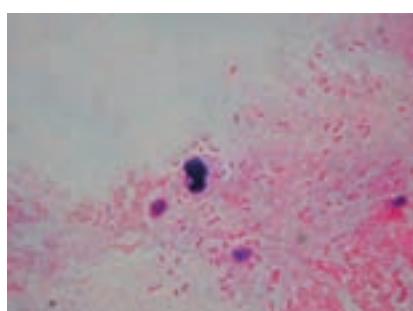


図H ● *Moraxella catarrhalis*

モラキセラ・カタラーリス

（グラム陰性双球菌）(168 ページ参照)

丸々としたグラム陰性双球菌、淋菌・髄膜炎菌（グラム陰性双球菌）やアシネットバクター（グラム陰性短桿菌、院内肺炎の起因菌として重要）もこれと似たようなグラム染色像である

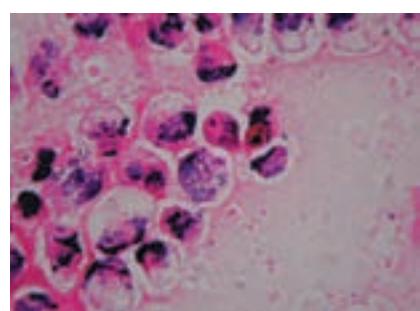


図I ● *Klebsiella pneumoniae*

肺炎桿菌（グラム陰性桿菌）

(172 ページ参照)

太くて比較的大きなグラム陰性桿菌、夾膜をもつのはK. pneumoniaeである。夾膜はないが、大腸菌やエンテロバクターなどの腸内細菌も似たような形態のグラム染色像をとる

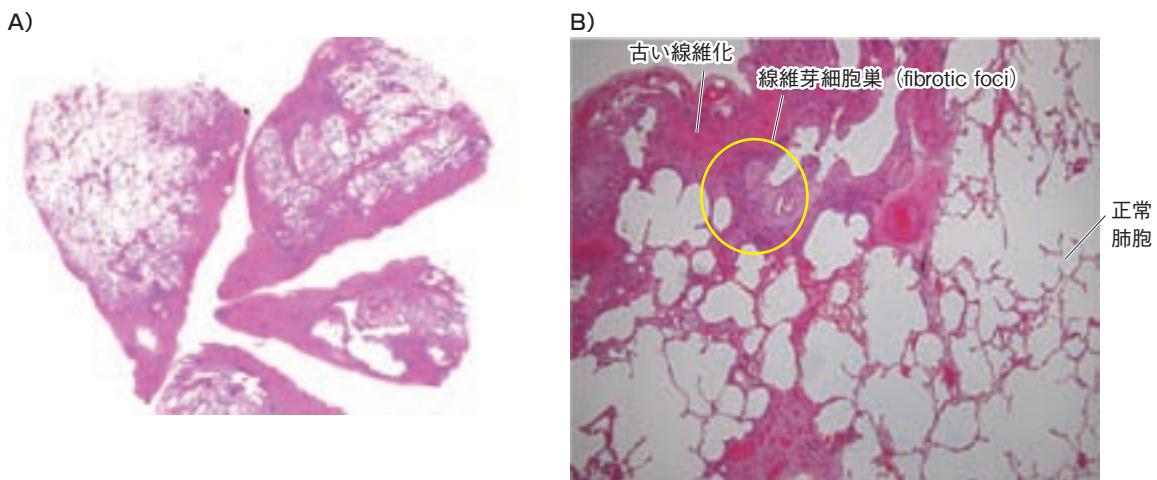


図J ● *Staphylococcus aureus*

黄色ブドウ球菌（グラム陽性球菌）

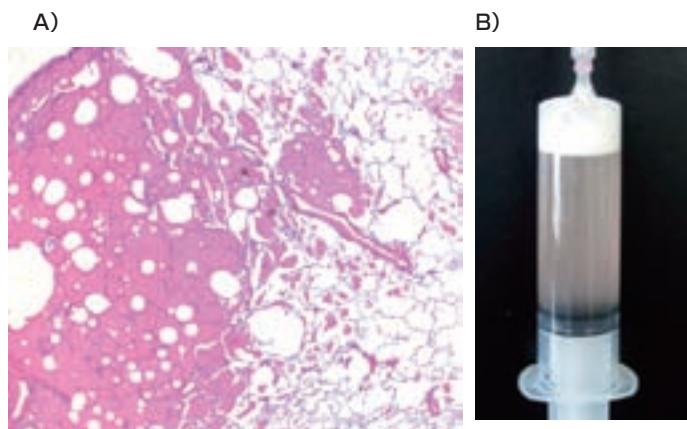
(175 ページ参照)

多数の房状のグラム陽性球菌が白血球に貪食されている



図K ● IPFの組織像 UIP パターン

(254 ページ図 6 参照)



図L ● 肺胞蛋白症の組織像 (A) と気管支洗浄液 (B)

(267 ページ参照)



図M ● CADMの患者に認められた
Gottron徵候

(274 ページ図 2 参照)

第2～4指PIP関節ならびに第2指DIP
関節の伸側に落屑状の皮疹を認める